

ね、弟が無理云うんでせう」といって側に行かま
すと、弟は「おっ母さん此間おっ母さんは、何事
でも弟は下手になるもんだと仰りましたから、私
は今手を温めるのに、兄さんより下手にならうと
しますのに、兄さんが聞かないで矢張下手に來る
んですもの」

狐のれ土産

獨醒軒主人

近隣の獵師或る日山に獵に行つて諸所方々を
かけまわつて居たが藪の蔭から年經た一匹の古狐
が出てきた獵師は用意の肩の銃をふるしねらいを
つけ火蓋を切れば過たず狐の横腹を打ち貫いた。
狐は苦さの餘り瀕りに土手の所を掻きまわしてと
一と其場に死んでしまつた、獵師は狐を持ち歸る

一とした所が山芋を澤山掘り出してあつた、此れ
は狐が苦さのあまり掻き出したのであつた、獵師
は大に喜んで山芋を包む爲めにそこいらの萱を切
りにいつた所が此にも雉子の卵子が十三ありまし
たとさめでたし〜

懸賞考へ物當撰ひろ一

- (1) 十八を二分して鳥の名一つ。はと(八、十)
- (2) 六を二分して草の名一つ。いちご(二、五)
- (3) 二十四を二分して家道具の名一つ。ごとく(五
十、九)
- (4) 千〇十を三分して日本の札所。那智山(七、千
三)

(1) 私は大變子供に好かれる滋養品で、原籍は外國
です。頭の數と足の數とを合すと十二になりま